

1. 科目名（単位数）	心理実践実習Ⅰ（3単位 420時間）	3. 科目番号	PSMP6282
2. 授業担当教員	齋藤 瞳、若松 直樹、柴原 直樹、山田 一子、後藤 進吾、家近 早苗、鈴木 克也、新井 雅人、大島 朗生、中里 克治		
4. 授業形態	実習	5. 開講学期	通年（2年間）
6. 履修条件・他科目との関係	公認心理師資格受験のための学部要件を満たしていること		
7. 講義概要	医療・保健分野およびその他の分野の施設（学校、福祉施設、司法・矯正施設）と本学附属臨床心理相談室にての実習を通して、実習指導者および実習担当教員により心理に関する支援を要する者等に対しての支援を実践しながら体験的に学ぶように指導する。 具体的には、次のような実践を通して、心理支援の実践を体得できるように指導する。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 （１）コミュニケーション （２）心理検査 （３）心理面接 （４）地域支援等 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ （エ）多職種連携及び地域連携 （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解		
8. 学習目標	施設実習を通して、上段の実習内容の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、大学院修了後に公認心理師として活動できる水準の知識と技能を修得する。		
9. アサシメント（宿題）及びレポート課題	「実習の手引き」を、熟読すること。 「実習記録」を定期的に提出すること。		
10. 教科書・参考書・教材	教科書：適宜、プリントを配布する 参考書：日本公認心理師養成機関連盟編集『公認心理師養成の実習ガイド』日本評論社 2019 山本 力『事例研究の考え方と戦略：心理臨床実践の省察的アプローチ』創元社 2018		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 実習施設での活動、実習記録の記述、実習の事後指導における実習報告において、基本的な水準に達している。 ○評定の方法 実習施設における実習指導者の評定 40%、実習記録ノート 30%、実習報告 30%		
12. 受講生へのメッセージ	実際の施設でケースに触れることになるので、実践的な能力を身につけることを目指す。 実習では正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退は許可されないので留意すること。		
13. オフィスアワー	各担当教員別に、追って連絡する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
オリエンテーション、実習中のまとめ（18.5時間）	【学習の目標】実習への心構えや留意事項、実習施設についての事前学習を行う。毎回の実習のまとめを行う。実習終了後の実習のまとめを行う。 【学習の内容】心理に関する支援を要する者等に対しての支援を実践しながら体験的に学ぶ。 【学習する上での留意点】「実習の手引き」の熟読および「実習記録」の書き方について習得する。		
施設での実習（379時間）	【学習の目標】心理に関する支援を要する者等に対しての支援を実践しながら身につける。 【学習の内容】心理に関する支援を要する者等に対しての支援を実践しながら体験的に学ぶ。心理支援の場における心理職の働き方、組織での活動の仕方、仕事を行う上での倫理等に触れ、体得していく。 【学習する上での留意点】「実習記録」を定期的に提出すること。必要に応じて適宜、担当教員の指導を受けること。		
実習後のまとめと発表（7.5時間）	【学習の目標】実習終了後の実習のまとめと発表を行う。 【学習の内容】実習で学習したことをまとめる。実習発表会で発表する。他の実習生の体験から学ぶ。 【学習する上での留意点】「実習記録」をまとめる。実習の体験記録から自己の学びと成長を振り返る。		